

プロフィール

国際基督教大学で平和研究を専攻。卒業後、陸上自衛隊で幹部自衛官として二年数か月勤務。退職後、英国のブラッドフォード大学で紛争解決学の修士号を取得。2017 年 5 月から 2018 年 3 月まで本事業で国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）西岸事務所に派遣され、Associate Programme Support Officer として様々な分野の仕事に携わる。研修終了後の現在、国連軍縮部にて JP0 として政務に従事。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学受験を意識し始めた高校生の頃、平和維持活動（PKO）に興味を持ちました。二度の世界大戦と国際連盟の失敗の教訓をもとに国際連合が誕生してから約 60 年。世界平和が達成されていないどころか戦争がまだ存在することに疑問を感じ、停戦に貢献する PKO に携わりたいと思うようになりました。

大学では平和について学び、陸上自衛隊に幹部として入隊することで軍事について学ぶ機会を得ました。しかし、幹部自衛官として常に PKO に携わるのは非常に難しいことを知り、退職を決意。国連職員として PKO に参加することを目指し、紛争解決学の修士号を取りました。平和構築人材育成事業プライマリー・コースのことを知ったのは大学院在学中のことです。プライマリー・コースを通じ、平和維持、あるいは関連した分野での勤務経験を積むことが将来国連 PKO に従事する可能性を高めることにつながると考え、応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

六週間の国内研修は非常に貴重な経験でした。プログラムとプロジェクトの違いすら知らなかった私にとって、project cycle management を段階に分けて一週間ずつかけて学べたことはとても有意義でした。国際機関や NGO での経験が豊富な講師の方々による講義とグループワークに対するフィードバックから多くのことを学びました。そして、講師の方々の体験談を聞いたことで国際機関での勤務で直面するかもしれない困難について知ることができ、自分だったらどうするか考えさせられました。

平和構築、開発、人道支援など様々な分野にも触れ内容の濃い研修でしたが、これを楽しく過ごせたのは同期のおかげです。多国籍かつ多様な背景を持ちながらも似た目標・関心を持っていて、今でも連絡を取り合える仲になれた同期は宝です。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修では UNRWA 西岸事務所に Associate Programme Support Officer として派遣されました。教育、保健、福祉、インフラ・施設整備、人道支援などのプログラムを支援する部署という特性上、様々な分野の仕事に携わることができました。例えば、難民キャンプで流行した感染症に関する部内通達の下書きや西岸における固形廃棄物管理戦略の作成、人道支援の年間報告書の作成支援、Healthy Camp Initiative という複数の部署が関わったプロジェクトの

最終報告書の作成など、多種多様な仕事を経験することができました。また、他部署や他組織との調整が求められる任務もありました。西岸事務所本部 (Front Office) の支援として戦略的判断に必要な研究・調査を頼まれた際は、UNRWA が所有する貯水槽や難民登録事務所、調達プロセスの現状に関する研究・調査を実施しました。このように多種かつ多量の仕事を任される部署でしたが、編成上純粋にプログラムサポートの機能を有する役職は上司と私、一名のインターンのみでした。そのため多忙な時期もありましたが、その分成長することができたと思います。



プログラムサポートオフィスのミーティングにて。コミュニケーションスタイルの違いが存在することを認識し、言い方ではなく言っている内容に集中することが大切です。



イスラエルと西岸を分離する壁を作る計画が存在するパレスチナ人所有のオリーブ畑にて、収穫の手伝い。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

6週間の国内研修で準備をしたとはいえ、前職が偵察隊の斥候班長である私がどのくらい UNRWA に貢献できるのか少し不安でした。しかし、幸いにも素晴らしい上司と同僚に恵まれ、迅速かつ正確に業務をこなすことを心掛けた結果、彼らから信頼されるようになり、UNRWA を去る時にはお互いに感謝をすることができました。中東での滞在も初めてだったため、自己主張が強く、声が大きいアラブ人のコミュニケーションスタイルや「インシャッラー（神がお望みならば）」と言って仕事をしない現地スタッフなど多くの発見がありました。他国の文化や組織と比較することなく、こういうものだと思っ止めることでストレスに感じにくくなったと思います。



部署の同僚とのリトリート。

一番印象に残っていることは、難民キャンプにある UNRWA の小学校を訪問した際子供たちと少し話した時のことです。初めは日本人という彼女らにとって珍しい人種が相手というのもあり恥ずかしがっていましたが、徐々に片言の英語で話してくれました。その中で印象的だったのは低学年の女の子が言った “I’ m happy but sometimes I’ m sad” という一言です。学校では無垢な笑顔を見せる彼女たちだが、日常的に暴力と貧困を目の当たりにしているのだということ突き付けられた気がしました。厳しい状況で暮らしているにも関わらず、彼女たちが将来への希望を持っていたことも印象に残っています。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

海外実務研修中に JP0 に合格し、現在国連軍縮部の地域事務所である国連アジア太平洋平和軍縮センターで政務官として勤務しています。UNRWA の時とは焦点が変わり主に国家レベル以上を対象とした仕事をしています。私にとって軍縮は新しい分野なのでまだまだ勉強する必要がありますが、この分野特有の課題も興味深いです。JP0 後は PK0 の政務官又は軍縮部に残ることを目指そうと思います。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

本事業は国際機関を志望している者にとって貴重な機会を提供しています。国内研修で必要なツールを身につけ、海外実務研修で国際機関での勤務経験を得ることができます。さらに、国内研修では面接と履歴書(P-11)の書き方も教わるので次のステップに進む際に役に立ちます。国際機関で働くことは特有の困難を伴いますが、その分多くのことを学びます。将来国際機関でキャリアを積むことに興味がある方はぜひご参加ください。